

育苗管理特報

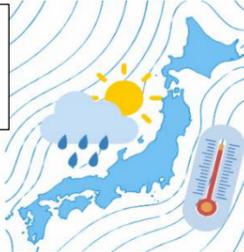
令和8年3月9日
黒東地域農業技術者協議会

健苗育成は、高品質で良食味な「みな穂米」へのはじめの1歩！

- ・5/15以降を中心とした田植えに合わせた育苗計画を立てましょう！
- ・育苗期間は軟弱徒長苗や細菌性病害の対策として、目安の温度より高温にならないよう管理しましょう。

ハウス準備

- ・ハウス周囲の排水溝の手直し
⇒ハウス内の排水性を高めることで、苗の生育環境を整える。
- ・事前に散水を行い、散水装置のかん水ムラがないか確認する。



育苗作業

未消毒種子の場合（薬剤がついていない種籾）

種子消毒

薬 剤：モミガードC・DF

種籾と薬液の容量比は1：1以上（重量比で種籾重の2倍以上の薬液を準備）

種籾	水	モミガードC・DF	消毒時間
50kg	100L	500g	24時間
100kg	200L	1000g	

- ・消毒液の水温は12.5～15℃を確保しましょう。
- ・消毒後の残液は、河川等に流出しないよう、適正に処理しましょう。

1日程度風乾（陰干し）し、種子消毒の効果を高める

消毒済種子の場合（薬剤がついている種籾）

浸種

【浸種水温のポイント】

- ・浸種初日は12.5℃を確保し、浸種時の水温が低い場合は、あらかじめ足し湯等により15℃程度の水温を確保してから浸種を開始しましょう。
- ・浸種時の水温は10～15℃を保ちましょう。

- ・10℃未満では芽の伸びが悪くなりやすく、不均一となります。
- ・水温15℃を超えそうな場合は、頻りに水の入れ替えを行いましょう。
- ・浸種桶の設置は直射日光を避け、温度変化の少ない場所にしましょう。

【水の交換のポイント】

- ・浸種の際は、桶に水をあらかじめ溜めてから種籾ネットを入れましょう。また、薬剤の効果を高めるため、浸種から3日間は水を交換しないでください（流水中での浸種は、薬剤の効果を低下させます）。
- ・その後、水の交換は2日に1回程度としましょう。その際に、種籾ネットをよく揺らし、上下を入れ替えましょう。
- ・浸種後半は籾の状態をこまめに確認し、芽の伸長が予定より早回った場合は、速やかに冷水に浸けましょう。
- ・てんたかく等の早生品種や富富富の浸種は1～2日長めに行いましょう。

【浸種の際の水は多めに！】

種籾への酸素不足、水温の急激な変化を防止するため、乾籾100kgに対して、水は360L以上入れましょう（容量比1：2以上）。



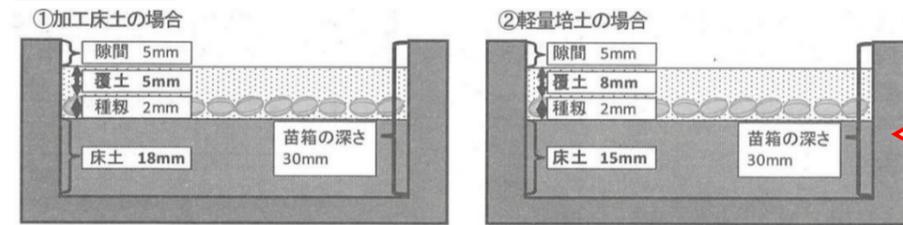
近年、5月以降の育苗が高温となり、細菌性病害が発生する事例が増えています。催芽や出芽の温度を28～29℃程度に抑えることで病害が予防できます。ただし育苗日数は0.5～1日程度長くなる点ご注意ください。

催芽

- ・育苗器で催芽する場合は29～30℃（5月以降に播種するうるち米は28～29℃）としてください。 ※循環式催芽器の使用は、病害の発生リスクを高めるので使用しない。
- ・催芽のバラツキを小さくするため、1日に2、3回程度、袋を反転させましょう。
- ・芽の長さは、ハト胸～2mm程度が目安です（伸び過ぎないように注意）。

播種

- ・1箱当たりの播種量は、乾籾で120g（催芽籾で150g）です。
- ・かん水を床土内部までむらなく浸み込ませるため、覆土の表面を育苗箱の上面よりやや低くしましょう。



軽量培土を使用する場合は、籾の露出を減らすため、床土を15mmと少なめ、覆土を8mmと多めにします。

出芽

- ・温度は29～30℃（5月以降に播種するうるち米は28～29℃）としてください。 ※30℃を超えると、カビやもみ枯細菌病が発生する原因となります！
- ・事前にサーモスタットが正しく作動するか必ず確認しましょう。

搬出

- ・ハウス搬出直後は、土が落ちつくまで水をしっかりかけましょう。
- ・被覆資材は緑化後に速やかに外しましょう（搬出2～3日後が目安です）。

5月以降のハウス内は高温になりやすいため、被覆資材は通気性のよい寒冷紗等を選びましょう。

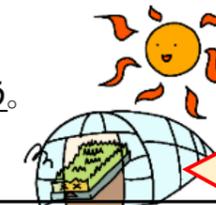
ハウスの温度管理

明け方が低温でも、日差しが差し込むと、急激にハウス内温度が上昇します。早めに換気を行いましょう！

【ハウスの温度管理のポイント】

- ・ハウス内温度が25℃以下となるよう、換気を徹底しましょう。
- ・春は、朝の気温が低くても、日中晴れると育苗ハウス内の温度は急激に高まるので、ハウスの温度管理に注意が必要です。
- ・荒天や低温予報が無ければ、基本は早朝から換気を行い、ハウス内の温度上昇を防ぎましょう。
- ・特に5月に入って、ハウスに搬出する苗は、直後から積極的に換気を行いましょう。

苗のステージ	緑化期	硬化期
育苗日数	2～3日	13～15日
ハウス内の温度	昼	25℃以下
	夜	10℃以上



細菌病に感染した苗には有効な治療薬がありません。予防の徹底（ハウス内温度25℃以下）が大切です。

密苗について

○密苗は育苗日数16日程度で十分な苗に仕上がります。一般苗と比べて苗質が急激に低下しやすく、田植適期幅4～5日程度と非常に短いので、田植時期に合わせた育苗計画のもと、ほ場準備（耕起・代かき等）を行いましょう。

【密苗における育苗計画の目安】

浸種日	催芽日	播種日	田植日	育苗日数
4月12日頃	4月21日頃	4月23日頃	5月10日	17日
4月20日頃	4月27日頃	4月29日頃	5月15日	16日
4月29日頃	5月4日頃	5月6日頃	5月20日	14日

※播種は田植え予定枚数分とし、まとめて行わないでください。